

# 附属教育実践総合センター



佐賀大学教育学部附属教育実践総合センターは、昭和59年4月に開設された附属教育実践研究指導センターを前身とし、平成14年4月に改組拡充された施設です。当センターは、「教育臨床部門」、「教育実践研究部門」、「教職支援部門」の3部門から構成されています。従来の「研究指導センター」では、教員の教育指導能力の開発、授業分析法の開発等を主な目的としていましたが、「総合センター」では、新たに教育臨床部門と教職支援部門を加え、教員養成の重要性を認識しつつ、さらに地域との連携を図り、教育現場のいじめ、不登校、発達障害をはじめ、さまざまな教育問題に積極的に取り組んでいます。

令和2年度から拡大委員を増員し、教育学部、教職大学院、県、市、町の教育委員会、附属学校園の連携を堅実に図るため中心的役割を担っています。これまで以上に開かれた大学を目指し、大学の蓄積した知識や地域の隠された知的財産を地域の人々とともに発掘し、次世代に継承する文化教育的な窓口、地域センターの役割を担っています。地域の教育のネットワークづくりへの貢献や学生ボランティア支援など、明日の教育やそれを担う教員養成を支援するセンターを目指しています。

